

とうきょうすくわくプログラム
ー光ー

敬愛フレンド保育園

 KEIAI GAKUEN
Social Well-being Corporation

●活動のテーマ●

光と出会い、光であそぶ ～感じて、気づいて、試してみる～

●テーマの設定理由●

カラーセロファン越しに世界を見たり、影を追いかけていたりする中で、「色が変わった!」「手の形が壁にうつった!」と、光と影の不思議さに心を躍らせている姿がありました。そうした気づきを起点に、「光」をテーマにしたあそびを広げ、お子さまたちの「なぜ?」「もっとやってみたい!」という気持ちに寄り添いながら活動を行ないたいと思い、今回は光をテーマに活動しました!



●主な活動スケジュール●

10月

カラーセロファンなどで色に興味をもち、光探究の環境が整った部屋をもうける。

11月

様々な道具や素材を使用し色への興味を深める。

色の混ざる様子、影のうつり方を知る。

12月以降

気づきをもとに普段の生活や自然の中で光や影の様子を見て、試す。

●活動のために準備した素材や道具、環境の設定●

光を感じられるよう、暗くなる部屋に様々な道具や素材を配置

・プロジェクター ・ウォーターマット ・OHP ・懐中電灯 ・卓上ライト
・ライトテーブル ・カラーセロファン ・アクリルボックス

●活動の内容●

導入としてカーセロファンを使用した手作りおもちゃを作成し、周りを眺め色の不思議を感じる。光るテーブルに手作りおもちゃを置いて光る様子を感じ変化を楽しむ。

プロジェクターに影を写し、動きと影の映り方の関係性について探究。

ライトをカーセロファンの下に置き、色を重ると変化することや、重ね具合によっても色に濃淡があることへの興味を深める。

●活動中のお子さまの姿・声、お子さま同士や保育者との関わり●

・光に興味をもち、光に向かって手をかざしていた。(0歳児)

・懐中電灯に興味を示し「これなに?」「ひかってる」と保育者と対話し、不思議だと思ったことを共有。(1歳児)

・お子さま同士で光のテーブルの上にアクリル積み木を重ね色の変化を楽しんでいた。(2歳児)

・同じアクリル積み木を、違う光にあて、光り方の違い探究する姿があった。(3歳児)

・「きらきらしているね」「ひかっているね」と友達と対話しながら光る様子をじっくりと観察していた。(4歳児)

・プロジェクターでは、自分の影が近づくと小さくなり、遠ざかると大きくなるのを実際に何度も動きながら試していた。(5歳児)



●振り返りによって得た職員の気づき●

お子さまたちは「光」に対して深い興味や不思議さを抱いていることに気づかされた。今回は環境を設定したのみで、そこで何をするかまでは声かけをあえて行なわなかった。お子さまたちが自ら気づき、遊び、試し、友達と共有する姿から、大人は「教える」のではなく、「気づきを支える」存在であることを学ぶことができた。また、数を十分に用意したり小グループで活動したことにより、一人ひとりのペースで探究し、保育者もゆとりを持ってお子さまの声に耳を傾けることができた。このような工夫がお子さまの探究心を支えるものとなるということに気づいた。